

＜ もくじ ＞	
1. 総会終了のご報告	1
2. コロナ禍について想うこと、言いたいこと	2
3. 原稿募集！ コロナ禍について想うこと、言いたいこと	3
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお願い	4

1. 総会終了のご報告

新型コロナウイルス感染症の全世界的な拡大などにより、6月14日（日）に予定されていた「創立20周年記念大会」は延期になり、現時点では開催方法について検討中です。しかしながら、2020年度は役員改選の年に当たり新役員ならびに会長の選任が必要となるため、総会は6月中に開催する必要がありますがありました。

ここ数年、事務局作業の省力化の努力の一環として、郵送費の削減を目的としてJAASNewsの送付を電子メールでの送信に切り替えるお願いをしたり、2018年の総会において総会の招集を郵送書面の他に電磁式（電子メール等）で行うことを可能にするように決議しておりました。今年度は、多くの会員の1カ所への参集が困難な状況下ですので、総会の招集は電子メールで行った上、総会は出席者3名で事務所で開催し、多くの会員は議決権の委任や行使を郵送と電磁式による書面で行いました。会員の皆様のご協力を得て今年度の総会は無事終了することができました。以下その報告です。

（1）総会の開催

- ◆日時：2020年（令和2年）6月24日（水） 10：30～12：00
- ◆場所：一般社団法人シニア社会学会事務所（渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202）
- ◆定数：会員総数160名 参加者計101名（出席者3名、電磁式、郵送による総会参加者98名〈個人会員88、団体会員10〉）で、過半数を超えました。

＜提案事項＞

- 第1号議案 2019年度活動報告
- 第2号議案 2019年度決算報告
- 第3号議案 2020年度活動計画案
- 第4号議案 2020年度予算案
- 第5号議案 2020年度任期満了に伴う理事改選案

＜結果＞

提案事項は満場異議なくこれに賛成し承認されました。

（2）臨時理事会の開催

通常、役員改選の総会後に臨時理事会が開催され、新理事互選により会長（代表理事）ならびに副会長の選出が行われますが、今回の臨時理事会は、電磁式と郵送を併せた書面決議によって行われました（この手続きは当学会定款33号2項に定められており、その規定に則って行われました）。

臨時理事会の結果、袖井孝子理事を会長（代表理事）、濱口晴彦理事ならびに清家 篤理事、神野 毅理事が副会長に選出されました。 （長田 記）

2. コロナ禍について想うこと、言いたいこと

(1) 「老後」の先取り体験から 会員：工藤由貴子

60代後半、まだまだやれると思っていたところにコロナ禍。急に始まった自粛生活。遠い未来だと思っていた（勘違いしていた）「老後」を先取り体験することになった。

この危機を乗り越えるために他世代と一緒にできることは何でもしたいという気持ちを掻き立てられる一方で、リスクの高い高齢者は自分の生存・生活を守ることが第一、それが社会への最大の貢献だといわれる、この乖離。その間を揺れ動く気持ちをどうしていいかわからなかった。

ふと合点がいった。「老後」の厳しさは、生涯発達を求めていく上で不可欠な「手段」であったはずの生存レベルの生活維持を「目標」として強要されることなんだと。それぞれにとっての意味・内容を問わないまま、高齢者はリスク回避のために自粛すべし、となれば、前向きな人生への夢も希望も手も足も出ない。

高齢者が再び世代の中で隔離されていく。長寿革命を経てようやく世代の統合がはかられたかのように思われたのも幻想だったのか。高齢者は危ないから引き続き自粛していてね、経済社会は若いものが動かしていきますから、というメッセージを受け取っているのは私の性格の悪さからか？

(2) 「コロナ禍に思うこと」 会員：小平陽一（運営委員）

この渦中、予定されていたイベントと仕事はすっかり中止となった。唯一残った仕事は、突然降ってわいた高校の非常勤講師。古希からのチャレンジと身構えた。が、コロナで休校状態。家庭学習用の課題づくりに追われ、Zoomによるオンライン授業の準備も束の間、クラスを半分に分けての分散登校でリアル授業が始まった。学校現場は学習保障とコロナ対策の間で混乱していた。

担当教科は人間生活科、家庭科をこう読み替えている。こんな学校日本全国どこにもない。そこで考えた年間授業テーマは、昨年の学会の講座をヒントに「この21世紀社会、今、君たちはどう生きる？」。この野望、コロナにちょっと水を掛けられた。

一方、家庭生活では、基本主婦の生活に変わりはなく、トイレトペーパーや小麦粉の品薄状態に気を配りながら、ほぼ自宅自粛で家事に追われていた。ここに、仕事現役の連れ合いが自宅待機となり、一日中顔を付き合わせるようになった。朝食が終わると、昼何にする？ 昼が終わると夕食何にする？ と食べる話題で一日があっという間に過ぎていく。雑事も相手に付き合わされてすっかりペースが狂い、家庭内ディスタンスも必要か！ と関係性の見直しに迫られる。もうじき来る、彼女の定年退職が今から不安になる。

(3) 「コロナ（転ん）でもただでは起きない、私の自粛期間」 会員：中村昌子（運営委員）

市川市の公立小学校の外国語指導員として3年目。コロナ自粛期間中は、児童と保護者向けYouTubeを作成したり、自宅学習用の教材を作ったり。今年度は、高学年は教科書も変わり教科化されたので、教材研究もじっくりできました。非常事態の中、先生方と連帯感や相互理解も深まりました。分散登校を経て通常に戻った小学校は、子供たちの存在で一気に活気づき、私自身、授業の坎も取り戻しました。

私生活では、5月初旬に14歳の愛猫が乳がんの大手術を受け無事生還し、6月から抗がん剤治療も始めました。折しも、昨年10月から半年間受講した「グリーン専門士」「ペットロス専門士」のマスターコースを修了した矢先だったので、いずれ訪れるかもしれない愛猫との別れへ向け、必要な事を整理し、重度の喪失感に陥らないよう、後悔の無いように心の準備をしています。

4月5日は、一日の締めは、21:00から始まるJAZZ ピアニスト小曾根真さんご夫婦が自宅から配信するLIVEに5000人超のリスナーと共に参加、全53回皆勤賞でした。セトリ（演奏曲一覧）を作成することを日課としたので大分JAZZ通になりました。

そんなこんなで、「コロナ（転ん）でもただでは起きない」わたしの自粛期間でした。

(4) 「コロナ禍について思うこと、言いたいこと」 会員：安田和紘（理事）

コロナ禍の出口はまだ見えない。後期高齢者としては、ひたすら巣ごもり、年金と蓄えで凌いでいけば何とか耐えられる。が、人と物の動きが止まり日本の経済は悲鳴を上げている。企業の売上や家計収入は激減、廃業や失職で路頭に迷う人も続出するであろう、自然災害が追い打ちをかけている。財政出動が求められ国家財政は一段と窮乏するに違いない。医療現場も崩壊の危機に瀕した。生活弱者ほど被る影響は大きい。我々の生活基盤はこんなにも脆かったのかと思い知らされた。本当の危機はこれからやって来る。

コロナ禍を契機として価値観、生活様式、働き方、そして人間関係・コミュニティのあり方を洗い直し、再構築しなければなるまい。感染防止を名目にした監視社会はご免被りたい。ソーシャル・ディスタンシングはコミュニケーションの断絶、人間関係の破綻につながる。

また、今回のコロナ禍では情報の重要性が格段にクローズアップされている。周辺の高齢者はPCやスマホを結構使いこなしているが、「通達・申告主義」の網からこぼれ落ちる高齢者は必ずいる。ICTへの習熟度の差がサービス受益の差になりかねない「ICT格差」が問題視されよう。誰でも容易に使いこなせる環境整備と教育が必要だ。

これから社会は動き、改革が進む。乗り遅れないよう、いや推進の一端を担う人になりたいと願う。

3. 原稿募集！ コロナ禍について思うこと、言いたいこと

緊急事態宣言が解除されたとはいえ、新型コロナウイルスの感染拡大は続いています。新しい生活様式が提唱されていますが、その内実は不確かです。この数か月間、皆様は、どのような日々をお過ごしでしょうか。自粛生活における体験や感じたこと、考えたことなどについて、何でもご自由にお書きください。次号以降のJAASニュースに掲載いたします。文字数は、400字前後、締め切りは特に設けません。

送付先は、メールの場合には、jaas@circus.ocn.ne.jp

郵送の場合には、〒150-0002 渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202 シニア社会学会事務局

4. 研究会からの概要報告

前号でお知らせしましたように、7月15日現在多くの研究会は集合形式での活動を控えております。二つの研究会からの報告を掲載します。

(1) 「社会情報」研究会 座長：森 やす子

「デジタル社会に必要なシニアの情報リテラシーとは？」をテーマに研究活動を続けている当研究会は、新型コロナウイルスの影響で3月からずっと定例会を休止していました。しかし、情報リテラシーを研究する会として新しいスタイルにも挑戦してみよう！ということで、6月の研究会は初めてのオンライン開催となりました。

慣れないオンライン研究会、まずどのWeb会議ツールを使おうか…という検討から始めました。Zoom無料版は1対1の通話に関しては無制限で利用することが可能ですが、3人以上のグループで通話を行う場合は、1回につき40分までという制限が付いてしまいます。シニア社会学会は有料アカウントを持っていないため、時間制限がネックとなる。また、世話人2名は、ふだんの仕事でZoomと異なるWeb会議システムを使っているため操作に詳しくない。もちろんホストになったこともない、という懸念がありましたが、結局はZoom利用に落ち着きました。

たとえ40分という短時間でも、まずは皆がオンラインになりつながることで今回の研究会は成功とすることにしました。しかし、当日は、時間と同時に続々と接続され、5分も経たないうちに全員が無事参加！つながらないトラブルがあるのでは？という心配は杞憂に終わりました。久しぶりの研究会、印象的だった読み物の紹介をする方、飲み会などオンラインを使いこなしていらっしゃる方、大学でのオンライン講義の講師によく慣れてきた方…とそれぞれの近況報告に花が咲きました。

(八巻 記)

※社会情報研究会は7月30日の研究会もWeb会議方式で実施します。どなたでも参加できますので、関心のある方はHP記載の「社会情報」研究会担当者までメールでご連絡ください。

(2)「YNS やまぶき任意後見サポート会」 座長：鈴木眞澄

未曾有の高齢者社会を迎えている我が国にとって、高齢者介護の負担軽減は喫緊の課題です。なかでも、認知症は要介護原因の20%を占める疾患であり、その患者は増加の一途です。その原因として、認知機能低下のある方とともに生活する社会の仕組みがないことがあげられます。そのために社会全体での取り組みが必要です。新オレンジプランにおいて「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現する」とあることから言えます。そこで本研究会では、認知症の方たちが住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるための研究を続けています。

成年後見制度の中で法定後見制度は権利擁護を旨としながら一面、本人の権利を侵害あるいは、大幅に制限する性質を持ちます。制度利用は低いのは制度がわかりにくいという理由があげられます。その他に信託制度、遺言などがあります。財産を後継者の次男に集中させて代々残していく目的のために、受益者連続型信託（委託者が亡くなくても信託契約を終了させずに、受益権を連続的に相続人に継がしていく信託）などがあります。遺言も遺留分侵害額の請求をするとどうなるのでしょうか。被成年後見人等もまじえて、人形劇や寸劇等で表現していき、これからの地域の研究をしていきたいと考えております

令和2年7月17日（金曜日）を予定していたのですが、新型コロナの影響で中止になりました。

(鈴木 記)

5. 事務局からのお願い

会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願い致します。

なお、電話による会員情報変更や退会の連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、メール・FAX・郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/